

ハザードマップ作成のワークショップ (まちあるき編)

防災部会長 山口隆之

ハザードマップ作成は、廿日市市が地域と連携して進めているもので、今年は一区が対象となりました。

ワークショップ形式で実施され、9月13日の第1回目について、10月10日には、第2回目の「まちあるき」を行いました。

「まちあるき」は、地域を実際に歩き、危険箇所の確認や、避難経路の確認を行うものです。一区の場合は、宮島口・宮島口上・宮島口東・福面の4地域の防災会ごとに、分かれて歩きます。

今回は、台風14号が近づいて、暴風の中実践しながらの避難経路探しかとも思いましたが、幸い、中国地方に影響はなく、天気も持ち直したなかでスタートしました。実際は、悪天候や夜間、場合によっては停電での避難も想定されますね。

参加者24名。大野東市民センターに集合後、ルートを確認し、4班に分かれて、約1時間、「まちあるき」をしました。

とくに大切なのは、過去に実際に起った災害の履歴が、ちゃんとマップに残されていくことです。擁壁（ようへき）のひび割れ箇所なども、メモを取ります。一区の場合は、川がないので、氾濫や土石流の心配はありませんが、土砂崩れや暴風、高潮、高波の心配があります。

実際に歩いてみて、危険箇所を把握するだけでなく、自分が避難する避難場所へのルートを日頃から歩いて確認しておくことが大切と思いました。

1時間後、再び大野東市民センターに集合、「まちあるき」の結果の整理を行いました。

次回は、「ハザードマップ最終案のまとめ」と「マップ活用方法」についてです。